

(手順2) 津波浸水シミュレーションの計算条件の設定

選定した津波断層モデルについて、津波浸水シミュレーションを行うにあたり、次の計算条件を設定しました。

- ① 計算格子間隔は最小で 10 mメッシュとしました。
- ② 陸地の地盤高については、地震による地盤沈下のみを考慮し、隆起は考慮していません。
- ③ 潮位については、全て朔望平均満潮位としました。

※朔望平均満潮位とは、朔（新月）及び望（満月）の日から 5 日以内に現れる、各月の最高潮位面を平均した潮位のことです。

- ④ 地震や津波による各種施設の被災を考慮しました。また、水門・陸閘等については、耐震性を有し自動化された施設、常時閉鎖の施設等以外は、開放状態として取り扱うことを基本としています。
- ⑤ 各種構造物については、津波が越流し始めた時点で「破壊する」ものとし、破壊後の形状は「無し」としてあります（その他「各種構造物の計算条件」参照）。

各種構造物の計算条件

構造物の種類	条 件
護岸、防波堤、水門等	地震や液状化に対する十分な対策が実施出来ていない区間については、構造物無しとしています。
堤 防	地震や液状化に対する十分な対策が実施出来ていない区間については、堤防高を地震前の 25%の高さと設定しています。

(手順3) 「津波浸水想定図」の作成

これらの計算条件により津波浸水シミュレーションを行い、複数ケースの津波浸水シミュレーションの結果を重ね合わせ、最大となる浸水域及び浸水深を出力し、「津波浸水想定図」を作成しました。

「津波浸水想定図」では、浸水深を色別に区分しています。浸水深の区分では、次の状況が想定されます。

- 0.3 m以上：避難行動がとれなく（動くことができなく）なる
 - 1 m以上：津波に巻き込まれた場合、ほとんどの人が亡くなる
 - 2 m以上：木造家屋の半数が全壊する（注：3 m以上でほとんどが全壊する）
 - 5 m以上：2階建ての建物（或いは2階部分までが）が水没する
 - 10 m以上：3階建ての建物（或いは3階部分までが）が完全に水没する
- （出典：「南海トラフの巨大地震モデル検討会（第二次報告）津波断層モデル編
－津波断層モデルと津波高・浸水域等について－（平成 24 年 8 月、内閣府）」）

5. 津波浸水想定図（抜粋）及び浸水開始時間図 位置図

